

○議長（長澤健君）

続いて通告３番　２番　樋口正訓君の一般質問を行います。

２番　樋口正訓君。

○２番議員（樋口正訓君）

２番樋口です。コロナと向き合いながらの現状ですが、町の活性化も考え、同時に図らなければならないとの思いで質問をさせていただきます。

はじめに、道の駅を中心とした観光振興策についてということで進めさせていただきます。まず、道の駅富士川は特産品の販売のほかに、年間を通じて多彩なイベントの開催などで、平日も多くの人で賑わっています。ホームページを開くと自転車関連の案内に注目します。「ご存じですか、山梨県は自転車パラダイス、サイクリングに最高の地形と環境が揃っています。」さらに続けて、「道の駅富士川ではNPO山梨サイクルプロジェクトと協力して、サイクリング王国山梨の拠点となることを目指しています。自然環境に恵まれた峡南地域はツール・ド・フランスにも似た本格的なコースから、家族や友人と富士川のせせらぎや田園の風景、また丘陵地から甲府盆地へ向かう景色を楽しむコースなど、多くのサイクリングのファンに愛されています。」などと綴られています。気軽に楽しめる乗り物自転車と道の駅を生かした取組みについて考えてみたいと思います。

そこで質問です。道の駅富士川を拠点とした自転車関連の観光振興策について町の考えを伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長　遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまの樋口議員の質問にお答えします。町では、NPO法人やまなしサイクルプロジェクトの主催により、平成２５年に開催をされました第１回ツール・ド・富士川をきっかけに、同法人と協力したイベントとして、道の駅富士川を拠点とした富士川沿いを周遊する南アルプスロングライドや、道の駅富士川を会場としたシクロクロス富士川を展開しております。

また、同法人が主として始めましたレンタサイクル事業を、平成２９年９月からは道の駅富士川が引き継ぎ、道の駅周辺の周遊観光の移動手段として、同事業を運営しております。

なお、昨年度は３７９件の利用がありそのほとんどが町外のお客様の利用でした。この事業のために、道の駅富士川が用意したマップには、町内観光名所、富士山ビューポイント、食事処、公園やトイレなどの記載がされており、利用者は、このマップを見ながら富士川や棚田の景色、甲府盆地の風景を楽しんでいただいていると、お聞きしております。中には町外までサイクリングを楽しんだお客様もいらっしゃったようです。

こうしたことから、今後も継続してレンタサイクル事業を進めるとともに、富士川沿いの自然散策や、峡南地域の観光名所の案内も計画して参りたいと考えております。

○議長（長澤健君）

樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

ただいまの課長の答弁から、観光の名所の案内と併せてやまなしサイクルプロジェクトのさらなる連携で、峡南地域の観光を活用したさらなる新しい取組みを考えておられるかどうかを伺いたいです。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。山梨県は、令和元年9月に自転車活用施策の明確化と県民および行政、民間事業者などが一体となりまして、自転車の活用の推進に取り組んでいくための指針としまして、県自転車活用推進計画を策定いたしました。この計画では、サイクル王国山梨の実現を目指し、観光分野を含む4つの分野におきまして課題に取り組むための施策が示されており、峡南5町を対象地域としました富士川流域エリアにおいて、道の駅を拠点とし、地域の観光資源を活用したモデルルートを設定するとされております。こうしたことから、今後も、NPO法人や山梨サイクルプロジェクトや道の駅、山梨県および国とも連携をしまして、自転車に関連した魅力ある取組みの創出を進めて参りたいと考えております。

○議長（長澤健君）

樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

その魅力ある取組みの創出をするという観点から、自転車を活かした三筋の活性化の取組みを考えてみたいと思いますが、道の駅富士川から五開、穂積、平林の三筋を自転車をつなぐ心旅と称して、新緑から紅葉までの四季を通して人気のある大柳川溪谷とかじかの湯、さらにつくたべかんから特産ゆずとあじさい寺、ダイヤモンド富士の穂積地区。平林では氷室神社、みさき耕舎の手打ちそば。足を延ばせばその先にはふるさと自然塾などの観光名所をたどる旅。沿道には温かな地域のおもてなしの応援を受けて、思い出に残るようなイベントの企画を提案いたしますが、町の考えはいかがでしょうか。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまの町内三筋に関連した取組みということでお答えいたします。県の自転車活用推進計画におきまして、道の駅を拠点としましたモデルルートの設定が示されていることから、関係機関と連携し三筋にある多くの観光資源を紹介したコース設定について調査研究をして参りたいと考えております。

○議長（長澤健君）

樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

ぜひ実現に向けて調査研究のほうをしっかりとしてほしいと思います。よろしくお願いいたします。

続けて、質問2に移ります。中部横断道の全線開通に向けたサイクリング拠点を目指して、既存のイベントをさらに拡充するような考えがあるか、町の考えを伺います。

○議長（長澤健君）

町長 志村学君。

○町長（志村学君）

樋口議員のサイクリング拠点を目指した、さらなる拡充策についての質問にお答えをいたします。中部横断自動車道の全線開通を見据えまして、既存イベントの拡充の可能性について模索するにあたりまして、関係機関との連携というのが欠かせないことだと考えております。こうした中、山梨県では本年度仮称ではありますが、峡南地域道の駅ネットワーク協議会を設置したいという考えがあります。今、コロナ禍の中でまだ実施はできておりませんが、こんなことを計画しているところであります。この協議会では、峡南地域にある5つの道の駅を連携させて、地域の魅力向上や経済波及効果を最大限に図るため、情報や交通のネットワーク化を計画しておりまして、この中には一つの案としてサイクル王国山梨の取り組みと連携し、道の駅を拠点としたサイクルツーリズムの展開等も検討することとしているところであります。

こうしたことから本町におきましても、道の駅富士川も同協議会に参画することによりまして、関係機関と連携した自転車関連イベントの企画について、峡南地域を舞台とした新たな事業展開をして参りたいと考えております。以上です。

○2番議員（樋口正訓君）

今町長のお話ですと自転車の振興については、さらに期待ができるというふうな気持ちで、大変嬉しく思います。

そこで再質問です。周辺環境の変化に応じたイベント、道の駅富士川は中部横断道の増穂インターから約1分、首都圏からも2時間程度のアクセスを活用した上で、自転車を自動車に積んできて参加できるような企画。もちろん当日のレンタルサイクルでの参加も可能。道の駅富士川の無料の駐車場に各自テントを設営し

て1泊。翌朝スタートして富士川を南下。峡南地方の先ほど町長おっしゃられたような道の駅をつなぎながら、変化に富んだコースを気軽に楽しむキャンプとサイクリングを組み合わせた取り組み。キャンプは今、アニメ効果で若者にも人気があります。他県からの参加で、交流人口の拡大にもつながるようなイベントの開催に期待をしますが、町の考えを伺います。

○議長（長澤健君）

町長 志村学君。

○町長（志村学君）

今回の峡南の道の駅のネットワーク計画の目的は、中部横断自動車道の全線開通に伴いまして増加する県内外の観光客を峡南地域に呼び込んでいきたい。そして峡南地域の活性化につなげていきたいということが1つ。また、今言いましたように、峡南地域の5つの道の駅が連携をすることによって、一貫性を持った戦略的な情報サービス提供をすることによって、地域の魅力の向上とか、周辺地域への経済効果の波及を最大限で生かしていこうというのが目的であります。協議会がこれから立ち上がって、いろいろ協議をしていきますけども、テントもこの1つの例であると思います。気軽に来ていただいて、過密にならないような感じでこれからやっていただくのも1つの新しい生活様式になるかと思いますが、峡南地域には下部温泉もありますし、いろいろなところに宿泊施設もありますので、日帰りコース、1泊コース、2泊コースとか、いろんなパターンをこれから皆さんと検討しながら、最後は道の駅富士川でお土産をたくさん買って帰っていただくというような計画になろうかと思いますが、そういったことをこれから議論しながら、峡南5町が連携をしながら大規模な観光につながっていけばいいかなと、こんなふうに考えているところであります。以上です。

○議長（長澤健君）

樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

ぜひ、さらなる協議会の強化を図っていただきたいと思います。

次の質問に移ります。県内には、富士川などの河川敷を利用したサイクリングロードがいくつもあり、非常によく整備されております。富士川サイクリングコースは、特に雄大な富士川の流れを感じながら、豊かな自然と四季折々の景色の中を走る人気のコースです。その富士川と釜無川をつなぐコースの中に、サイクリング橋が数年前の護岸工事の影響によりか、撤去されたままで工事が終了した現在も復旧をされておられません。

そこで質問です。質問の3になりますが、サイクルスポーツを観光振興策の1つとして捉え、サイクリングロード網の整備が必要と思いますが現状について伺います。

○議長（長澤健君）

土木整備課長 志村正史君。

○土木整備課長（志村正史君）

ただいまのご質問にお答えいたします。本町内の富士川サイクリングロードについては山梨県で整備し、町で維持管理を行い、釜無川および笛吹川サイクリングロードに接続されていることから、サイクリングロードのネットワークを利用してサイクリングを楽しむ環境が整備されていました。このような中、横川に架かるサイクリングロード橋は、洪水時には水面下に沈んでしまう潜り橋であり、平成7年頃から内水被害解消のため、国における増穂地区富士川引堤事業に伴い、撤去の協議があり機能補償に関して協議を進めていたところでございます。

しかし、当時の設置位置では、潜り橋での機能補償については、構造令上認められないことから、橋長を長くすることにより、構造令に適合した橋梁の設置が可能となったが、本町への費用負担が多額となり、その当時は架け替えは計画されませんでした。

こうした中、平成10年度から引堤事業が着手され、平成20年度の完成までの間に、サイクリングロード橋は撤去され、現在もその状況は変わっておりませんが、サイクリングロードのネットワークの必要性につきましては認識しているところでございます。以上です。

○議長（長澤健君）

樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

再質問です。豊かな自然環境を活用して、県ではサイクル王国山梨を推進しています。計画の1つには、広域サイクリングネットワークを通じて、近隣自治体と連携をして、自転車通行区間の形成、環境の維持改善などと記されております。富士川町も、道の駅富士川を拠点としたまちづくりを推進しています。こうしたことから、速やかにこの橋梁部分の整備に着手をする必要があるのではと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（長澤健君）

土木整備課長 志村正史君。

○土木整備課長（志村正史君）

ただいまのご質問にお答えいたします。サイクリングロードの新橋の設置につきましては、サイクリングロードのネットワークには必要であることから、これまでも、代替案について関係機関と協議を進めて参りました。

その代替案としては、坪川の堤防を利用するルートおよび坪川に新橋を設置する案について関係機関へ要望したところ、この案では釜無川と坪川の合流点に近いことから、釜無川のバックウォーターを考えると、治水上の支障がないとは言

い難く設置は困難であるとの回答でありました。

こうしたことから、代替ルートの可能性について関係機関と検討をしているところでございます。以上でございます。

○議長（長澤健君）

樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

課長の答弁から、諸事情によりサイクリングロードの復旧が困難ということであれば、代替ルート案として堤防を走り上流に向けて国道140号線に連結をして、増穂橋ほか2橋の歩道を利用して、県の廃プラ処理場付近で既存のコースに接続をさせる案などが考えられます。ただし、車道を横断、国道を横断する接続部分の安全対策等を配慮しなければならないという条件になろうかと思います。また、南アルプス市の地域も含まれるため、南アルプス市とも連携した実現に向けての取組みも望みますが、町の考えはいかがでしょうか。

○議長（長澤健君）

土木整備課長 志村正史君。

○土木整備課長（志村正史君）

ただいまのご質問にお答えします。サイクリングを楽しむ環境整備としては、サイクリングロードのネットワークは必要であることから、樋口議員のご提案の代替ルート案につきましては、代替ルートの1つとして、これまで検討した経緯がございました。このルートには課題があり、1つ目は富士川右岸の堤防天端が未舗装であること、2つ目は国道140号には歩道があるものの反対側にあり、2回横断することは危険であるため、2箇所の安全措置が必要であること、3つ目は滝沢川の堤防天端の幅員が狭いことがあります。なお、国道140号を2回横断することにつきましては、甲西道路国道52号の坪川大橋南の信号がある交差点を横断する場合は、滝沢川右岸の堤防を渡る際の1箇所のみ、安全措置が必要なこととなります。

このようなことから、ご提案をいただいたルート案には、課題があるものの実現性のあるルートであることから、検討していただけるよう関係機関に要望しており、引続き実現できるよう取り組んで参りたいと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（長澤健君）

樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

ぜひ早期の実現を目指して、よろしくお願いいたします。

再質問の3番です。このサイクリングロードの整備は、長い間の地域住民やサイクリングファンの要望でもありました。早期につながることで、信玄堤や

笛吹川の万力公園などへのサイクリングも容易となり、自転車愛好家の夢は膨らむばかりです。また、市川方面に通う学生も利用したいとの声も多く、この部分の整備は不可欠であり、早い段階での実現を願いたく町長の見解を伺います。

○議長（長澤健君）

町長 志村学君。

○町長（志村学君）

山梨県のサイクリングロード整備は、昭和50年の半ばごろから全県的に実施をされてきました。富士川のサイクリングロードにつきましても全線開通をし、そして、各小中学校でもサイクリングの授業も行われたところではありますが、その後、当地域では横川の改修等々によりまして、これまであったサイクリングロード橋が撤去されたということ。また、それに対しての代替案も町も出してきたのですが、そこがどうしても洪水時は水没をしてしまうというふうに難点があることから、これまで進んでいなかったわけではありますが、現在は国あるいは中日本高速道路も含めてでありますけれども、富士川右岸の土手と中部横断自動車道増穂インターの間が若干空いているところがあります。その南が道の駅との間が今盛土をしておりますが、あれは転圧をするための土置き場でありますので、いずれ撤去をした後にあそこを富士川の右岸の護岸の高さまで盛土をするという計画が、国土交通省のかかわまちづくりの中で持っておりますので、町としても協力をしながら、そして盛土をした後には、そこを舗装していただきながら、その後そこをサイクリングロードとして活用できるようにすることによりまして、今言った国道140号を使う代替案がもっともっと現実味を帯びてくるのではないかなと思っております。こうしたことも含めて、交通のネットワーク化というのはこれからも大切だと思いますので、先ほど申し上げました峡南地域の道の駅ネットワーク協議会の中で、サイクル王国山梨との取組みとも連携をする中で、道の駅を拠点としたサイクルツーリズムを展開していきたいと思っております。道の駅ではありますけれども、これから自転車の駅と呼ばれるような道の駅にしていければと思っておりますが、道の駅だけの努力ではいけませんので、これからは車で来てというお話もありましたが、鉄道とかバスなんかも自転車を乗り込ませて、そしてまた地域へ来て動いて行っていただくというのも1つの案になると思います。また観光地とか宿泊施設においても、自転車ラックの整備をしていただいたり、自転車を持ち込めるような宿泊施設というのも今後目指していただければ、自転車を中心としたことができてくるのではないかなと思っております。それにもこれにもやはり、そこでしっかり自転車をこげるサイクリングロードがつながっていなければ意味をなしませんので、先ほど申しましたように富士川右岸と中部横断自動車道の間に盛土がされた後には早急に舗装をしていただいて、そこをサイクリングロードとして活用できるように県、国へも協力に要

請していきたい、こんなふうに考えているところであります。以上です。

○議長（長澤健君）

2 番 樋口正訓君。

○2 番議員（樋口正訓君）

町長ぜひ、サイクリングファンの夢を叶えてあげてください。よろしくお願いします。終わりになりますが、今後の自転車の普及と関連事業の振興について、いくつかの取組みの案を提案いたしましたが、実現に向けて大いに期待をしております。

以上で私の道の駅富士川を中心とした観光振興策についての質問を終わります。

○議長（長澤健君）

以上で通告 3 番 2 番 樋口正訓君の一般質問を終わります。